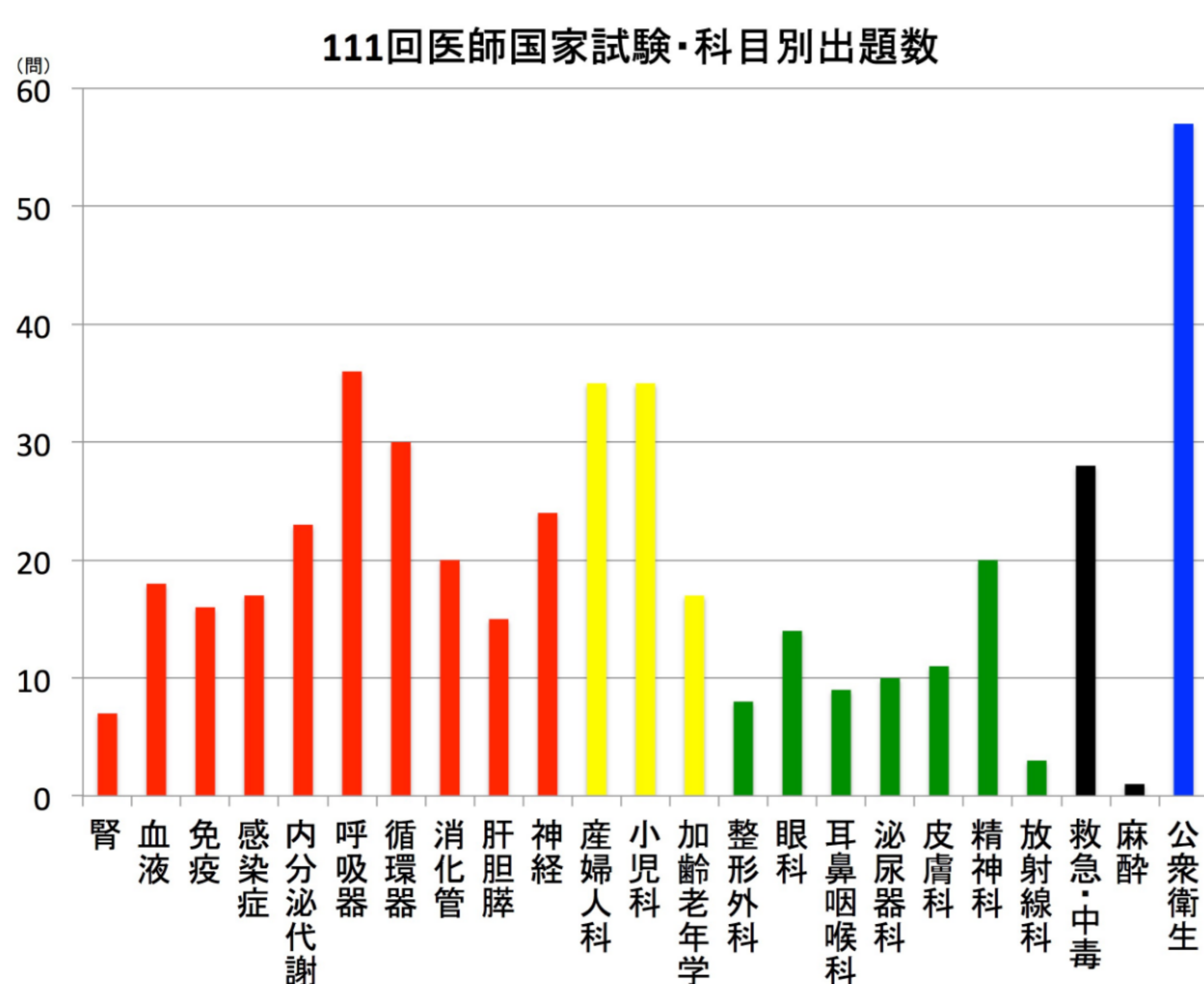


国家試験に一番多く出題されるのは呼吸器



・・・そして内分泌代謝や循環器といった古典的ポリクリを差し置いて**トップに躍り出たのは呼吸器**である (medu4では肺炎を感染症に分類しているため、もし**肺炎まで呼吸器に含めると圧倒的な数**)

> medu4 SCHOOL 111回医師国家試験・総評より
> <http://medu4sc.com/111souhyou>

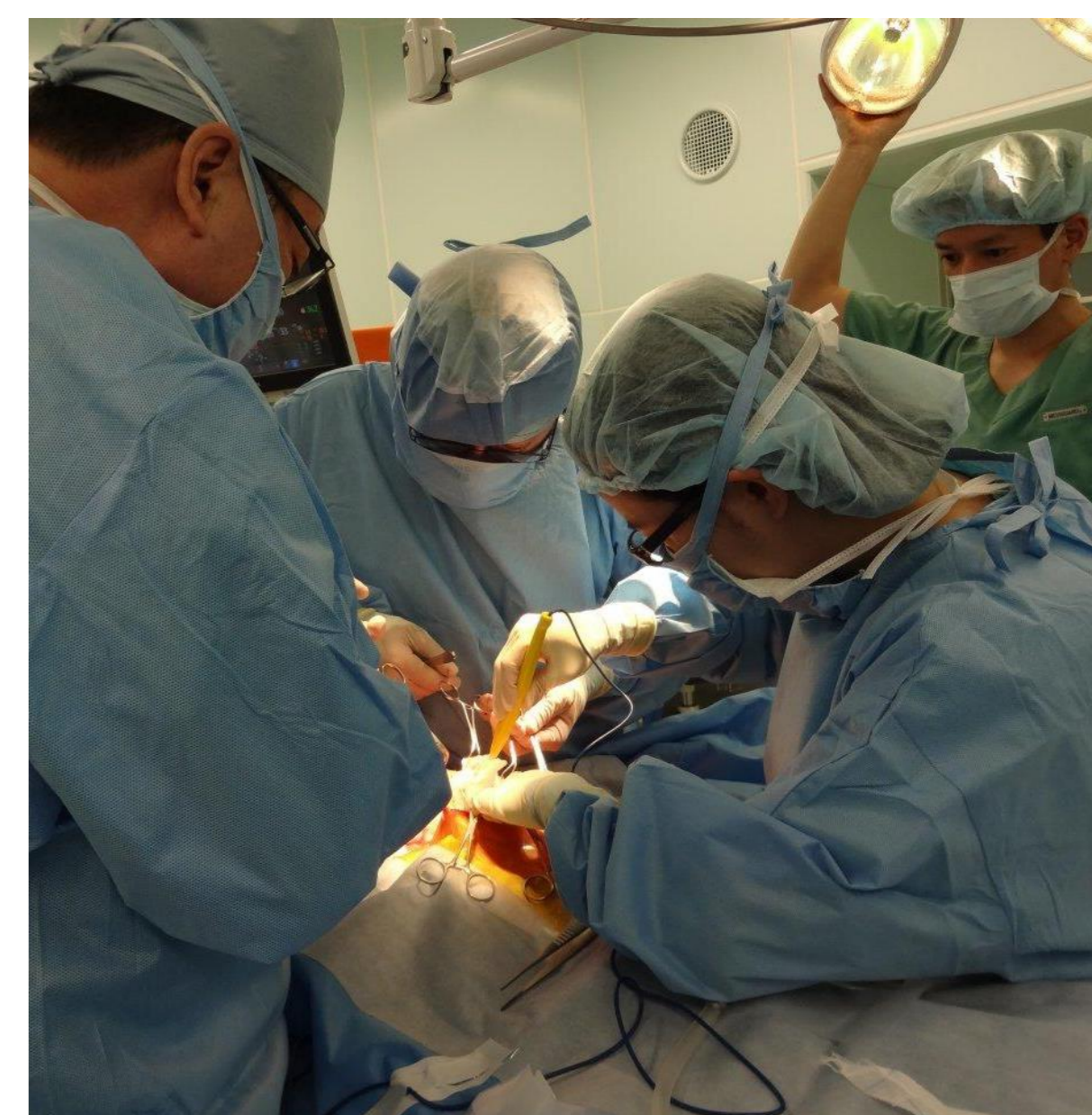


ポリクリで学生が回るのももちろん、研修医として多数の科目をローテーションにあたって重要な事項を押さえる事が主眼になってきた医師国家試験で出題数が多いのは、**初期研修医が、医師としての基礎を学ぶ上で呼吸器がもってこい**といえるからなのではないでしょうか。

生の声／高橋 奈七／乳腺・呼吸器外科

卒業時に進路を決めており、1年目は市中病院、2年目は大学病院とたすき掛けで研修しました。まずは他科をまわり、市中病院で一般的な疾患について学びました。2年目は大学病院で自科の研修をしました。大学病院は症例が多く、専門性が高いため、**早い段階から専門医取得に向けての研修**ができ、**上級医のサポートも手厚い**です。

呼吸器センターは自由な雰囲気、楽しく仕事をしている感じがします。診療に関しては、**内科と外科が一緒**にいるため、**普段から距離が近く話しやすい**環境にあります。そのため、診療がスムーズだと思います。また、臨床だけではなく研究も盛んであり、指導体制も整っています。



生の声／松木 真奈／初期研修医(麻酔蘇生科)

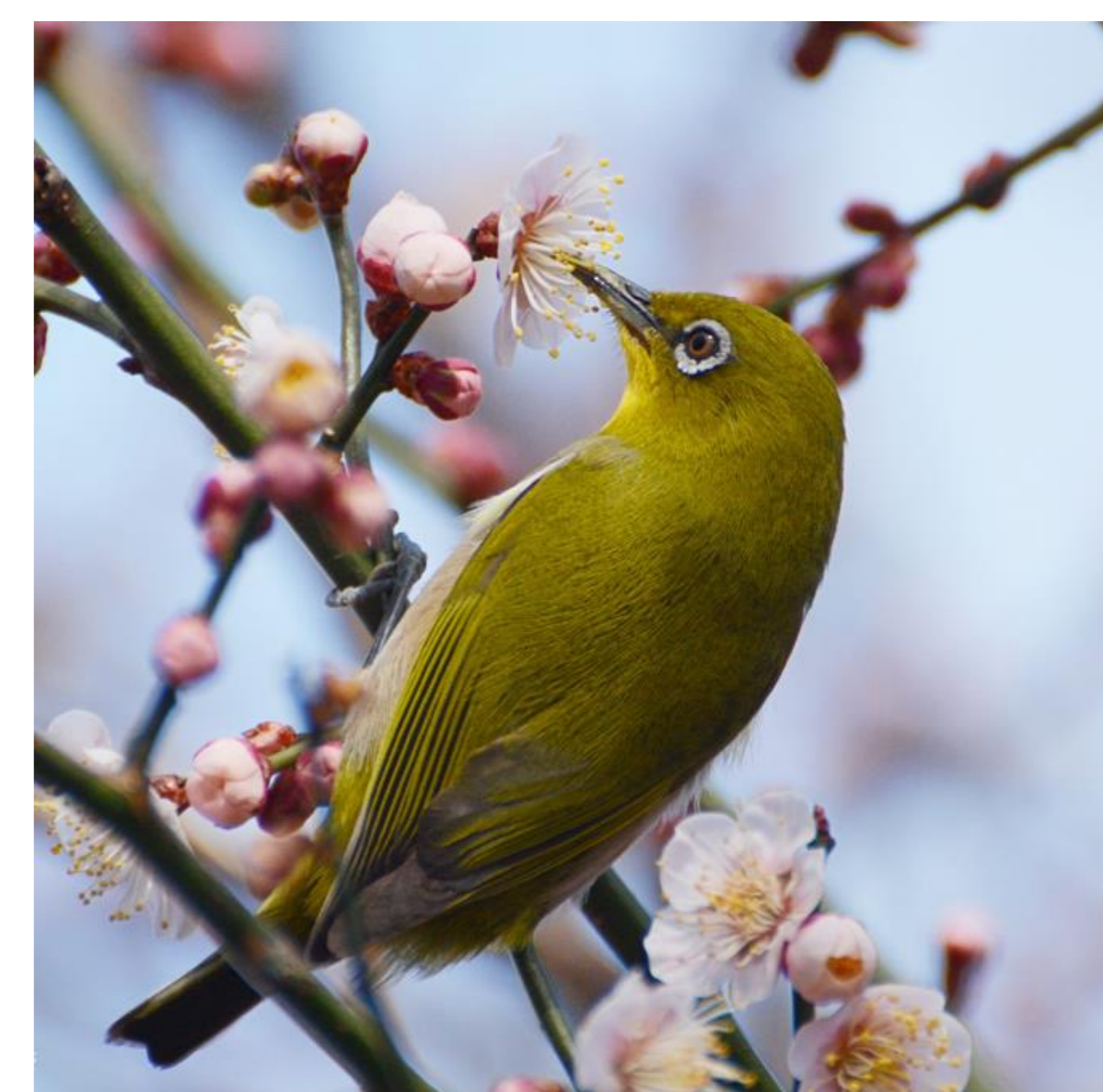
私は、最初の2か月間を、呼吸器内科で研修させていただきました。呼吸器内科は**主治医制**なので、**一人の患者さんに対して入院から退院まで、集中的に診療に携わ**ることができます。受け持った患者さんに今必要な検査は何なのか、これからどのような方針で治療していくことが望ましいのかなどについて、主治医としての責任をもってアセスメントを重ね、わからないことがあった際には先生方が懇切丁寧に教えてくださるので、大変多くのことを勉強させていただいています。

また、上級医の先生方にご指導をいただきながら、**採血や末梢静脈ルート確保、胸腔ドレーン挿入術や胸腔穿刺、気管支鏡検査**など、研修1年目の4月に**して数多くの手技を経験**させていただきました。2か月間で経験させていただいたことや学んだことを、今後の研修にも繋げていきたいと考えております。ご指導いただきました呼吸器内科の先生方には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



生の声／梅影 泰寛／呼吸器内科

呼吸器センターでの研修では**悪性腫瘍及び感染症、膠原病**と関わる人が多いです。一般的な内科疾患である肺炎や喘息を通して、抗菌薬や吸入薬の使い方を学ぶことができます。また、間質性肺炎の診療では**膠原病の診断や治療**を考える必要があります。**CT所見を詳細に見て身体所見や検査結果と総合して診断**するといった内科で重要な診断のプロセスを身につけられます。悪性腫瘍に関しては化学療法の効果や副作用を経験することができます。治療方針の検討だけではなく患者さんと一緒に今後の生活を考えることも大切です。癌以外にも間質性肺炎や進行期のCOPDの**終末期医療**を行うことが多く、内科として今後の医師の生活に役立つものであると思われれます。



学生・初期研修医が、呼吸器で実習・研修をすることが有意義であることがお分かりいただけたと思います。呼吸器センターで、実習・研修・入局をしてみませんか？「本当に」人が少ない分、大切に育てます！

